

浜松運輸区分会情報

発行責任者 山本繁明 2025 年 9 月 8 日 No.2 J R 東海労浜松運輸区分会

戦後 80 年戦争体験を語る会開催



分会は、8月28日浜松市内で、第35回定期大会後、「戦争体験を語る会」を開催しました。戦後80年を迎え戦争体験者が年々数少なくなっていく中で、貴重な戦争体験を学び後世に引き継ぎ、二度と不幸な戦争を起こさないために開催しました。浜松市南部に住むJ R 東海労O Bの根本勉さんから戦争体験のお話しをしていただきました。

浜松には硫黄島が陥落してから3回の大きな空襲があった。軍需生産をしていた日本楽器や

物資輸送の鉄道の拠点となった国鉄工機部（現在のJ R 東海浜松工場）があった。また市内には航空機の工場や浜松基地に飛行場があったため攻撃を受けた。アメリカ軍は何が何処にあるのか事前に偵察機で調査していた。

1回目の空襲は5月19日、B29による爆弾が日本楽器のある市内中心部と浜松工場に投下された。母親の実家にも爆弾が投下され『防空壕に入っていたがゴーという大音響とともに地面が揺れた。家は壊れ手掘りの井戸の蓋が飛んだ』と聞いた。そのため私の家に親戚が間借りをしていた。

2回目の空襲は6月18日、B29が、浜名湖の方から50機の編隊でやってきて、6万5,000発の焼夷弾が投下された。私のすぐ南の家やお寺は焼けてしまった。焼夷弾は、役40cmの六角柱で、青い紐が付いていて街には雨のように降った。焼夷弾の中には、発火性の高いセメンダインのようなベタベタした燃烧剤が入っていた。それが体に付いた人が、取れないため「痛い痛い。殺してくれ」と悲鳴を上げた。不発弾の焼夷弾の1本で風呂が沸いた。焼夷弾には、羽の付いた丸い焼夷弾もあった。**3回目の空襲**は7月29日の艦砲射撃だった。沖にサウスダコタ、マサチューセッツ、インディアナ、キングジョージ5世の戦艦が並んで発砲した。私の家の上空をヒューと言いながら町の中心部に弾丸が飛んで行った。国鉄浜松工場、日本楽器、などを標的に艦砲射撃は30日の0時18分まで続いた。艦砲射撃は、高性能のレーダーがなかったため、町の上空に照明弾が落とされそれをめがけて撃たれた。艦砲射撃の砲弾は16インチ（40cm）であった。その後グラマンがしょっちゅう来て機銃射撃をした。日本は海軍が、殲滅させられたので負けた。空襲を体験した当時はみんな殺されると思った。みなさんの力で戦争をしない世の中にしたいと訴えました。



焼夷弾

*詳細は講演集にして報告します。